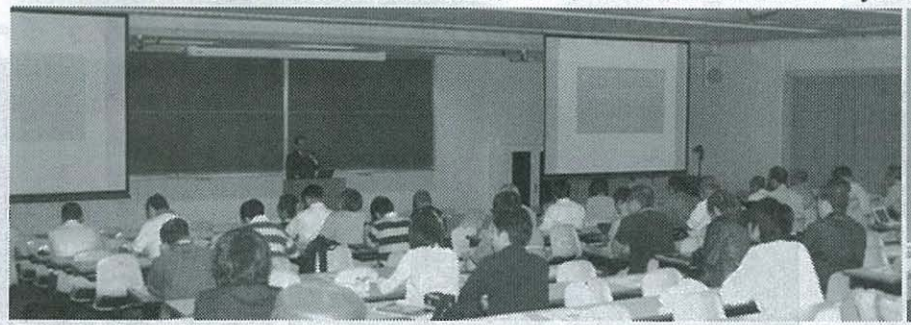
〔問い合わせ等は、東工大社会人教育院事務室（TEL：03-3454-8867、E-Mail：info@yoiku-in.titech.ac.jp）まで〕

＝高校生・一般向け公開講演会＝

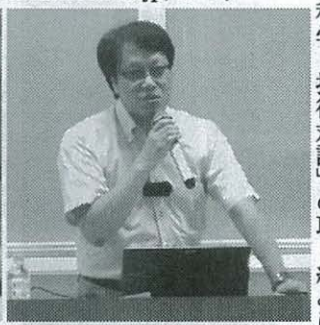
「東工大が誇る若手研究者たち」開催中

東京工業大学では、10月1日から毎週土曜日・全8回にわたって、「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に採択された若手研究者17名が、主に高校生を対象として最先端の科学・技術研究の取り組みを分かりやすく語る公開講演会を開催している。これは、内閣府が「国民との科学・技術対話」で提唱している「公的資金による科学・技術の研究成果の社会への還元」の一環として実施している。

開催初日は、56名の参加者に向けて、社会人教育院の鈴木正昭院長が開催主旨「国民との科学・技術対話」の取り組みについて説明。引き続き、応用セラミックス研究所の神谷利夫教授が『次世代ディスプレイやiPad3は「ガラス半導体」で動く』をテーマに、また、精密工学研究所の曽根正人准教授が『二酸化炭素を利用してエレクトロデバイスを作成する』をテーマに、各45分講演し、高校生をはじめ参加者との活発な質疑応答を行った。講演会は今後、本年11月26日まで開催する。



研究の取り組みや成果に加えて、高校生向けに活躍する研究室在籍生を紹介する曽根准教授の講演風景



質問に答える神谷教授

愛知教育大学でJICA集団研修開講式

日本国際協力機構（JICA）集団研修「産業技術教育」コースの開講式が10月6日午前、愛知教育大学で行われた。

同研修は、日本の進んだ産業技術教育を発展途上の国々の教育関係者に学んでもらい、自国の教育現場で役立ててもらうのが狙いで、同大では例年、この時期に研修員を受け入れている。今回は、ボツワナ、ミャンマー、パレスチナ、セントクリストファー・ネビス、セントルシア、南アフリカ、スリランカ、トルコから計10人が受講。式には研修員と、JICA中部国際センターの奥山明次長、同大の松田正久学長ら30人余が出席した。

北村一浩准教授（技術教育）の開式の辞で始まり、松田学長が「本学では1999年よりこの研修を開講しています。1カ月余の研修で多くを学ばれ、自国の教育の場に生かしていただくことを願っています。10、11月は日本のベストシーズンでもあり、この滞在をぜひとも楽しんでください」などと英語で歓迎の挨拶。研修員もそれぞれ経歴や現職を自己紹介し、「この機会を用意してくれたJICAや愛知教育大学に感謝します」とお礼を述べた。

式の後は、早速、研修が始まった。研修期間は、11月18日までで、この間、留学生会館に滞在し、同大での研修、企業などでの産業技術の体験や見学が行われる。

同大の関係者と研修員で記念撮影

歓迎の挨拶をする松田学長